

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学医歯学総合研究科大学院						
教育プログラム・コース名	がん病理診断医・技師養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医歯学総合研究科大学院生（医師、臨床検査技師）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	①様々な腫瘍性疾患、稀少癌の病理診断、細胞診断を行う能力を有する人材 ②様々な腫瘍性疾患、稀少癌に対する分子病理学的診断を理解できる人材 ③AIを活用した補助病理診断システムの理解ができる人材 ④デジタル病理診断システムの理解、実行ができる人材 ⑤新しい病理学的実験法について理解、開発できる人材						
修了要件・履修方法	がんプロフェッショナル養成プラン科目6単位、所属分野の専門科目18単位、他科目を合わせて30単位以上を履修し、学位論文を作成し提出、審査、最終試験に合格すること						
履修科目等	<必修科目> 所属する専門分野の科目、がんプロフェッショナル養成プランの病理診断学（1単位）＋病理診断実習（1単位）と合わせて18単位 <選択科目> がんプロフェッショナル養成プランのがんの生物学・解剖学・病理学（1単位）、臓器別がん（1単位）、小児・稀少癌、がんゲノム（1単位）、臨床腫瘍学（1単位）などから4単位以上選択し、所属する専門分野以外の単位と合わせて計12単位以上						
がんに関する専門資格との連携	病理専門医（日本病理学会）、細胞検査士（臨床細胞学会）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	稀少癌を含め、様々な臓器の腫瘍性疾患について、それぞれの領域のエキスパートから講義を受け、実習によって知識の定着をすることができる。実習においては大学病院における病理診断に携わり、専門家から報告書の添削など直接的な指導を得ることができる。デジタル画像、バーチャルスライド化されたアーカイブ資料を使って多くの稀少癌の病理診断について学ぶことができる。今後必要となるAIを活用した病理診断の最前線、診断システム開発の専門家の講義が受けられる。癌の病理診断にとって重要性を増している分子診断についての最新情報、検体管理について専門家の講義を受けることができる。デジタル画像技術を利用した遠隔病理診断システムの構築、応用について専門家の講義を受けることができる。病理学的研究の最先端、新しい疾患モデルについて講義を得ることができる。これらの内容は従来の病理学教育では得難いものであり、新規性、独創性を有している。						
指導体制	東京医科歯科大学病院病理部、人体病理学・包括病理学・口腔病理学分野、連携する施設の病理診断部門の病理専門医、細胞診専門医が指導に当たる。						
修了者の進路・キャリアパス	病理専門医、細胞検査士を取得し、大学病院の教員、地域の中核病院やがん拠点病院にてがんの病理診断のスペシャリストとして活躍する。大学病院と地域の病院とはデジタル病理診断システムを利用して連携する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	3	3	3	3	3	15
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人/年と設定。						
履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0